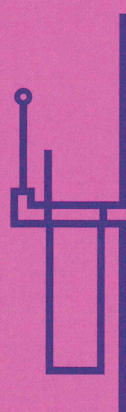


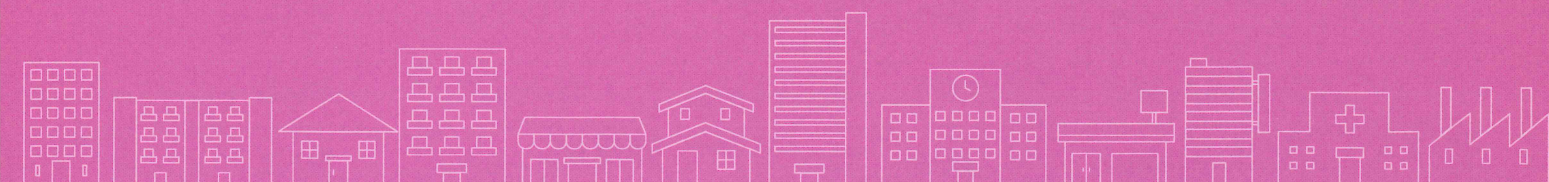


認定型式番号
ふV-001号
ふV-001-1号



ハッチ用救助袋

垂直式救助袋



「より安全に火災からの脱出」をサポートする救助袋の製造メーカーです。

SAITA INDUSTRY Co., Ltd.

Hiスコーダー I 型の特長

(ハッチ用救助袋)

らせん式のゆるやかな安定したすべり台です。

- らせん式は、軸ベルトを中心に、安定した角度の滑降路が作られており、幅及び高さにゆとりのあるすべり台方式です。
- ゆっくりと一定の速度で、左廻りにスムーズにすべり降ります。
- 避難する人は、連続してすべり降りられます。
- すべり降りる姿勢は、ややひざを曲げ、左手は軸ベルトを抱えて、すべり降ります。

上層階から直接地上に避難できます。

- 避難者一人で容易に使用できる器具です。
- 転落の恐れや、まごつきがなく、円滑に避難行動が行えます。
- 滑降路がらせん式すべり台なので、出口部での衝撃はありません。

主要材料は、独自の設計による特注品です。

- 袋本体に使用するポリエステル帆布、ポリエステル平二重織ベルト及びミシン加工用ナイロン縫糸は、その組成、強度、加工法、色等を、それぞれ仕様に適するよう独自に設計し、繊維メーカーに特注しており、一般市販品は使用しておりません。
- 特に袋本体のポリエステル帆布は、告示基準（材料表参照）を大幅に上回っています。引張強度、引裂強度、摩擦、腐食、耐候性に優れています。

袋縛着枠

- 新築（新設）はもちろん、既設の梯子ハッチを袋ハッチに改修することも可能です。

材 料 表

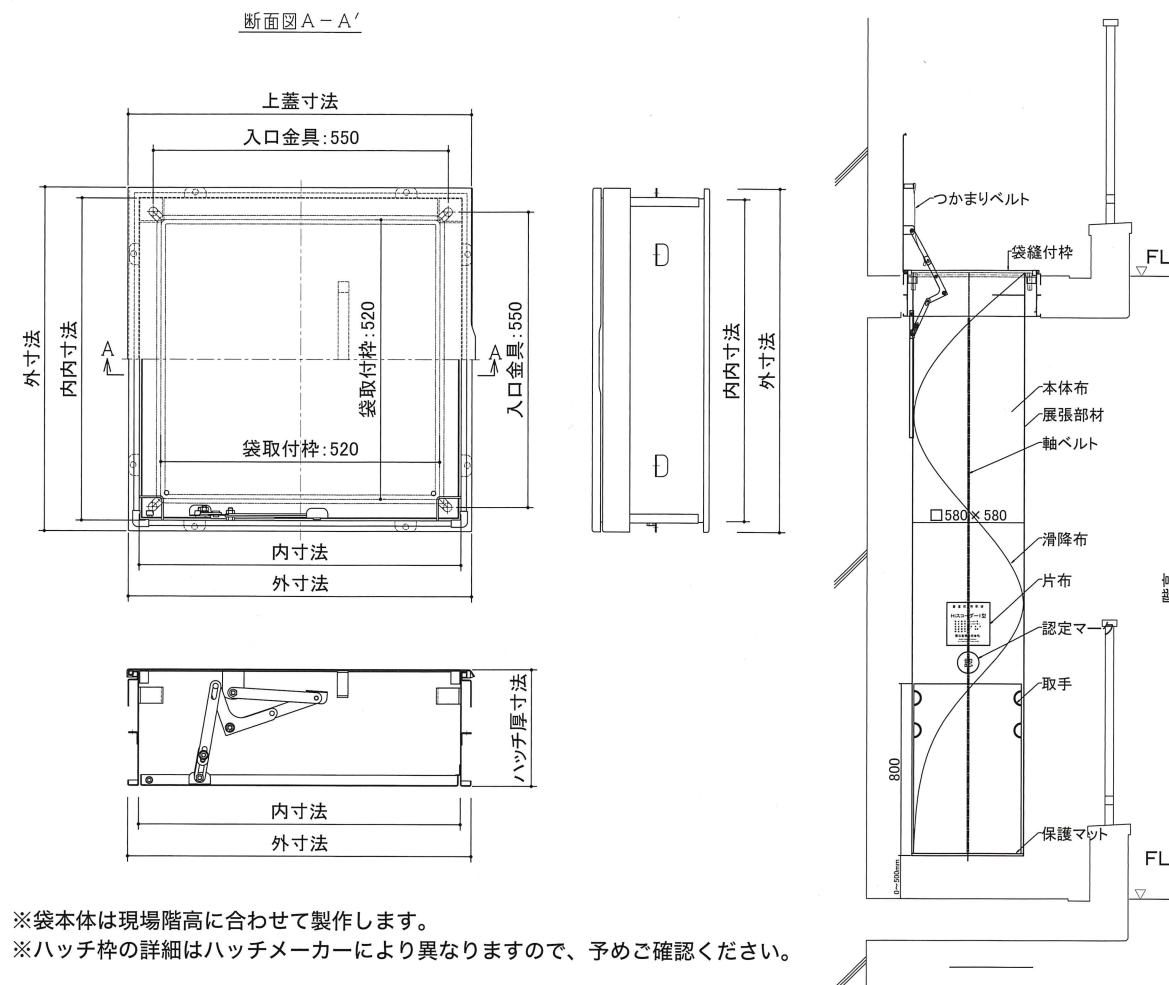
名 称		使用材料	当社製品値等	告示基準等
袋 本 体	滑 降 布 補 強 布	ポリエステル帆布 #4	・タテ 170kg以上 (1700N) 引張強さ ・ヨコ 250kg // (2500N)	・タテ 100kg以上 (1000N) ・ヨコ ・タテ 12kg // (120N) 引裂強さ ・ヨコ ・平面 200回 // 摩耗強さ ・屈曲1000回 //
	外 装 体 マ ッ ト 皮	ポリエステル帆布 #6	・タテ 24kg // (240N) 引裂強さ ・ヨコ 28kg // (280N) ・平面 700回 // 摩耗強さ ・屈曲1500回 //	・タテ 12kg // (120N) ・ヨコ ・平面 200回 // 摩耗強さ ・屈曲1000回 //
	覆 い 布	ポリエステル帆布 #6	・タテ 200kg以上 (2000N) 引張強さ ・ヨコ 180kg // (1800N) ・タテ 17kg // (170N) 引裂強さ ・ヨコ 19kg // (190N) ・平面 340回 // 摩耗強さ ・屈曲1500回 //	・タテ 80kg以上 (800N) ・ヨコ ・タテ 8kg // (80N) 引裂強さ ・ヨコ ・平面 200回 // 摩耗強さ ・屈曲1000回 //

名 称		使用材料	当社製品値等	告示基準等
袋 本 体	展 張 部 材 滑降路軸ベルト取 手	ポリエステル 平二重織ベルト	引張強さ：2000kg×5 (20000N) 注) 5 は展張部材の数	展張部材： 最大引張強さ：3550kg (35500N) 注) 展張部材の合計
	縫 糸	ナイロン縫糸 #5 OD 色 白色	引張強さ： 7.5kg 以上 (75.0N) 引掛強さ：13.0kg // (130N) 摩耗強さ：750回 //	引張強さ： 6kg 以上 (60N) 引掛強さ： 10kg // (100N) 摩耗強さ：500回 //

姉妹品

Hi-スコーダーⅡ型（各階兼用型）

構造図



設置位置

取付部		降下空間	避難空地
開口部の大きさ	操作面積		
直径0.5m以上の円が内接することができる大きさ又はこれと同等の大きさとする。	0.5m²以上 一辺が0.6m以上	2.0m以上	1.0m²以上
・0.5m²以上かつ一辺が0.6m以上 ・器具の水平投影面積は操作面積から除く。 ・操作に支障がないこと。		避難器具用ハッチの開口部の面積以上を有する角柱形	降下空間の水平投影面積以上で避難上安全性が確保されたもの

避難器具(令第25条) 避難階及び11階以上の階を除く

1	イ	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	2階以上の階(主構造部を耐火構造とした建築部の2階を除く)又は地階で収容50人以上 設置個数：200人毎に1個追加
	ロ	公会堂又は集会場	
2	イ	キャバレー、カフェ、ナイトクラブその他類するもの	
	ロ	遊技場、ダンスホール	
	ハ	風俗営業関連(一部除外あり)	
	ニ	カラオケ店その他類するもの	
3	イ	待合、料理店その他類するもの	
	ロ	飲食店	
4		百貨店、マーケット、物品販売業の店舗又は展示場	
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所その他類するもの	
	ロ	寄宿舎、下宿又は共同住宅	
6	イ	病院、診療所又は助産所	2階以上の階又は地階で収容20人以上(下階に(1)～(4)まで、(9)、(12)イ、(13)イ、(14)又は(15)が存する場合10人以上) 設置個数：100人毎に1個追加
	ロ	老人短期入所施設、養護老人ホームその他類するもの	
	ハ	老人デイサービスセンター、保育所その他類するもの	
	ニ	幼稚園又は特別支援学校	
7		小、中、高等学校、大学その他類するもの	2階以上の階(主構造部を耐火構造とした建築部の2階を除く)又は地階で収容50人以上 設置個数：200人毎に1個追加
8		図書館、博物館、美術館その他類するもの	
9	イ	公衆浴場のうち、蒸気浴場、熱気浴場その他類するもの	
	ロ	イの公衆浴場以外の公衆浴場	
10		車両の停車場又は船舶・航空機の発着場(旅客の乗降又は待合…	
11		神社、寺院、教会その他類するもの	
12	イ	工場又は作業場	3階以上の無窓階又は地階で、100人、その他3階以上の階で150人 設置個数：300人毎に1個追加
	ロ	映画スタジオ又はテレビスタジオ	
13	イ	自動車車庫又は駐車場	
	ロ	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	
14		倉庫	
15		全各項に該当しない事業場	3階以上の無窓階又は地階で、100人、その他3階以上の階で150人 設置個数：300人毎に1個追加
16	イ	複合用途防火対象物のうち、その一部が(1)項～(4)項、(5)項…	
	ロ	イ以外の複合用途防火対象物	
16-2		地下街	
16-3		建築物の地階((16-2)を除く)で連続して地下道に面してい…	
17		重要文化財その他類する指定されたもの	
18		延長50m以上のアーケード	
19		市町村長の指定する山林	
20		総務省令で指定する舟車	
設置対象(一階段) 令別表第1に掲げる防火対象物の3階(※1)以上の階のうち、当該階(※2)から避難階又は地上に直通する階段が2以上設けられていない階			収容人員が10人以上 設置個数：100人毎に1個追加

操作方法

有資格者による年2回の定期点検を受けて下さい。
ハッチ付近は、常に避難経路を確保して、
ハッチの開閉の妨げになるものは、置かないで下さい。

①

取手をにぎり、上ぶたを開く。
(下ぶたが連動して開く。)

②

下階の安全を確認し、ベルトの赤い部分を引き、救助袋を下階に落とす。

③

つかまり
ベルト

腰掛布

救助袋が下階床に着いているかを確認し、腰掛布にすわってからつかまりベルトを握り、中に入る。

④

降下する姿勢は足より入り、足をそろえ両手をあげて、滑り降りる。

格納方法

救助袋を引き上げる。

▼

救助袋を折りたたみ、ベルトで固定する。

▼

上ぶたを持ちながらアームのヒンジを引き、上ぶたを閉める。(下ぶたも連動して閉まる。)

ハ ッ チ 枠 表

名 称	袋 長(m)	ハッチ枠厚	名 称	袋 長(m)	ハッチ枠厚
2.5型	2.3~2.7	H=217 H=210	6.5型	6.3~6.7	H=300
3.0型	2.8~3.2		7.0型	6.8~7.2	H=330
3.5型	3.3~3.7		7.5型	7.3~7.7	
4.0型	3.8~4.2	H=247 H=240	8.0型	7.8~8.2	
4.5型	4.3~4.7		8.5型	8.3~8.7	H=360
5.0型	4.8~5.2	H=277 H=270	9.0型	8.8~9.2	
5.5型	5.3~5.7		9.5型	9.3~9.7	
6.0型	5.8~6.2	H=300	10.0型	9.8~9.9	

救助袋の寿命及び製作寸法について

1. 告示基準(昭和57年6月)以前に製造された救助袋の場合

認定制度以前の製品に関しましては、強度の基準がまちまちであり、経年変化による強度の劣化はかなり進行しており、

帆布・縫い糸とも収縮が激しくなっていますので、至急交換が必要です。

2. 告示基準(昭和57年6月)後に製造された救助袋の場合

「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」別表一によれば**格納式避難設備の耐用年数は8年**となっています。弊社製の救助袋は、通常で屋外設置の場合で10年、室内設置の場合で15年の耐用に耐えるよう設計されています。

救助袋に使われているポリエステルは強度、耐候性に優れており、従来品の2倍以上の寿命となっております。

救助袋の縫い糸であるナイロンは、吸水性、強靱性、耐衝撃性、柔軟性いずれにも優れていますが、紫外線、水分吸収、塩分、熱などによって劣化していきます。さらに水分を吸収すると約10%から15%強度が弱くなります。また、ナイロンは伸びに

優れているので衝撃吸収に使用されていますが、墜落係数2の衝撃を3回から5回加えると、この吸収性はほぼなくなります。つまりナイロンという繊維は、**何も使用しなくても製造されてから4、5年経過すると強度が落ちていき**、また、使用頻度によってはほころびも起こりやすくなり、**外見上異常が全くなくても劣化している場合があります**。弊社ではその特性を鑑みて救助袋の寿命を設定しています。設置状況によりましては、製品の劣化は早く進行するものと思われ、資格者による精密点検の上、早めの交換をご検討ください。

製造・販売品目

■各種避難設備

救助袋（垂直式HスコーダーⅠ型・Ⅱ型、斜降式）
避難器具用ハッチ

■各種繊維製品

フライトジャケット・一般アパレル その他

齋田産業 株式会社

本社 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-6 大宮第2ビル
TEL.(03)3291-4141(代) FAX.3292-8588
<http://www.saitasangyo.co.jp/>

北海道営業所

〒063-0061 北海道札幌市西区西町北9-1-6
TEL.(0134)32-1414 FAX.(011)688-9205

生産工場 小樽工場

〒047-0015 小樽市住吉町6-1
TEL.(0134)32-1414(代) FAX.32-1412

組立工場 江戸川事業所

〒134-0082 東京都江戸川区宇喜田町1238
TEL.(03)5658-7273(代) FAX.5658-7276



各種取扱い方法の
動画はコチラ。